

Nonequilibrium Systems”, Wiley, New York, (1977) [邦訳, 「散逸構造」(岩波書店)], 北原和夫, 吉川研一: 「非平衡系の科学 I」(講談社サイエンスフィック, 1994).

- [9] Haken H.: “Synergetics”, Springer, Berlin, (1977) [邦訳, 「協同現象の数理—物理, 生物, 化学的系における自律形式」(東海大学出版会)].
- [10] Prigogine I. and Lefever R.: J. Chem. Phys. 48 1695 (1968).
- [11] Zhabotinski A.: Biofizika 9 306 (1964).
- [12] Field R. J. and Noyes R. M.: J. Chem. Phys. 61 1877 (1974).

- [13] Winfree A. T.: “The Geometry of Biological Time”, Springer, Berlin, (1980).
- [14] Tomita K. and Kitahara K.: Biophys. Chem. 3 125 (1975).
- [15] Chandrasekhar S.: “Hydrodynamic and Hydromagnetic Stability”, Oxford Univ. Press, Oxford, (1961).
- [16] Lorenz E.: J. Atmos. Sci. 31 499 (1983).
- [17] Monin A. S. and Yaglom A. M.: “Statistical Fluid Mechanics: Mechanics of Turbulence”, MIT Press, Cambridge, (1971).

●ミニ●ミニ●

●OR●

ケースは大きめに, 詰め替えは小さめに

わかり易さのために, シガレット・ケースを例にとろう。シガレット・ケースなどもう滅多に見かけなくなった品だから, むしろ, あけすけに話ができる。

シガレット・ケースにシガレットを詰めて持ち歩く。無くなれば, 補給する。そのときには, 新しい包装を開くわけだが, ケースの大きさが一包装分より小さければ余りが出てしまう。余りを無駄にしないためには, 別に卓上用の大きなタバコ入れが必要になる。それよりは, ケースの大きさが, 一包装分より一寸大きくなっている方がよい。それならば, ケースの中身が残り少なくなった所で詰め替えることもできる。

大きさにいえば, これは在庫管理の問題である。本数を単位に式を書けば,

$$\begin{aligned} \text{ポケットの大きさ} &> \text{ケースの大きさ} = \\ &= \text{一包装分} + \text{安全在庫分} \geq \\ &\geq \text{外出時に吸う本数} \end{aligned}$$

というのが, 無駄を防ぐための条件である。ところで, ここでは一包装分の本数が先に与えられ,

それによってケースの大きさを定めるという形で問題を考えた。しかし, ポケットの大きさやケースの方から物事を考えるという視点もある。適度なケースの大きさを設定した上で, たばこ会社の発売する包装の大きさを“決めさせる”のである。力関係からして, 困難があるのは明らかだが, この方がむしろ人間的だといえるかも知れない。ケースが廃れた今, シガレットの包装の大きさをこの点から考える必要は最早ないが, 一般的にはぜひ留意すべき視点である。

実際, これと同様の問題はわれわれの身近に数多い。お宅のボンボン入れの大きさは, いつもお求めのボンボンの袋と較べていかがだろうか? 大きさの適性が求められるのはボンボン入れか, はたまた, 製菓会社の包装か?

詰め替え用品の簡易包装による資源の節約は大切なことだが, その大きさにも上記のような合理性に関する配慮が求められる。……規格やモジュールは社会のソフト・インフラストラクチャーを構成する重要な要素なのだから。

(からくり堂主人)